巻頭言

読まれる学会誌を目指して

発　田　　弘†

コンピュータは実用化されてから約 30 年になりこの間の技術の素晴らしい進歩によって性能は高く，価格は安く，かつ小さく，軽く，使いやすくなった．その結果今日では陰に陽にあらゆる場面でコンピュータが使われており，特別の教育や訓練を受けた人達だけの扱う物ではなくなった．多くの人がコンピュータの利用者であり，パーソナルコンピュータやワークステーションの普及でその範囲は一層増大している．これは当学会が発足した当時には予想もできなかった事態であろう．当時はハードウェアやそれを動かすプログラムを作ること自体に研究的要素が大きかったし，利用者といえども特別の知識をもった人達であった．

ところが現在は，単なるブラックボックスとしてコンピュータに接している人が大半であるし，コンピュータが完全な工業製品になるに伴ってプログラムの作成も「ソフトウェアの生産」というとらえ方に変わってきている．もちろん先端的な研究開発もますます盛んでそれに携わる人の数も増大しているが全コンピュータ人口に占める相対的な割合としては減少しているであろう．

このような時代であるから，「情報処理」という言葉のカバーする範囲は非常に広く，当学会の会員も広い分野に拡がっている．3万を超える会員の中には先端的な研究に携わる研究者，情報処理教育に携わる教育者，製品の開発に携わる技術者，システム設計をやっている SE，企業などでコンピュータを利用して仕事をやっている人達，などなど多種多様な人々がいる．しかもその方々の関心の対象も基礎理論，ハードウェア，ソフトウェアあるいは応用システムと千差万別であろう．したがって当学会はあたかも多民族から構成される連邦国家のようなものだと考えられる．

学会の中の各研究会あるいは具体的に研究会などを構成していなくても共通の関心をもつ人達のグループはそれぞれ「情報処理連邦」を構成する共和国に例えられるであろう．各共和国と連邦政府の関係については，各共和国を管理統制するのがよいか各共和国の独立性を最大限に認めたゆるい結合がよいか議論の有るところだが最近の価値観の多様化を考えれば後者の方が当学会に向いているように思う．その場合，各共和国が何を期待して連邦の一員になっているのかを考え，それに応えることが連邦の発展に不可欠であり，さもないと離脱し独立する共和国も出てくることであろう．

このような状況の中で学会の機関誌は各共和国民に関心のある種々の情報を不公平なく提供すると共に，各国民の意見を連邦の運営に反映するためのメディアとして一層重要性が高まっている．昨年度からその大切な学会誌の編集を担当するようになり会員の方々の期待に添うべく関係者と努力してきたが，現在何より改善しなければならないのはもっと読まれる学会誌にすることであると考えている．そのために；

- 読みやすくする，つまりやさしくする．
- 会員の関心の高いテーマを取り上げる．
- タイミングよい企画をする．

などに取り組んできた．

その成果はいまだ顕著に表れていないかもしれないが引き続き努力する所存であり期待していただきたい．しかしながら今後さらに会員の方々の期待に添った形へと改善するにはまず会員の方々の学会誌に対する評価を知ることが大事と考えて，毎号巻末にアンケート用紙を付けている．お気付きでない方も多いようでまだ返信は月に数通のレベルであるが貴重な意見をいただけるので編集関係者はいつも期待している．是非一人でも多くの方が意見をお寄せくださるようお願いする次第である．　　(平成3年10月8日)

† 本会理事　日本電気(株)